

<p>平成 25 年 12 月 25 日</p>	<h1>病虫害発生予報</h1> <h2>1 月号</h2>	<p>茨城県病虫害防除所 茨城県植物防疫協会</p>
------------------------------	--------------------------------	--------------------------------

農薬は、専用の保管庫に鍵をかけて適切に管理しましょう。

< 目 次 >

<h2>I. 今月の予報</h2>	
<h3>【注意すべき病虫害】</h3>	
<p>イチゴ：ハダニ類</p>	1
<p>促成ピーマン：うどんこ病</p>	1
<p>促成ピーマン：アザミウマ類</p>	2
<h3>【その他の病虫害】</h3> <p>イチゴ，促成ピーマン，促成トマト，促成キュウリ</p>	
<h3>【防除所レポート】</h3>	
<p>平成 26 年版果樹等病虫害参考防除例について</p>	3
<h2>II. 今月の気象予報</h2>	
<p>本文に記載されている薬剤は平成 25 年 12 月 18 日現在のものです。 最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。</p>	
<p style="text-align: center;">詳しくは、病虫害防除所へお問い合わせ下さい。 茨城県病虫害防除所 Tel : 029-227-2445 予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。 ホームページアドレス http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/</p>	

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 12月中旬現在、寄生葉率(本年値 14.1%, 平年値 4.5%), 被害葉率(本年値 28.1%, 平年値 8.4%)ともに平年より高く、発生地点率は平年並である。ただし、寄生数や被害程度は圃場による差が大きい。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。なお、薬剤は古い下葉を除去してから散布すると、薬液が葉裏にもかかりやすくなり効果的である。
- ③ 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、気門封鎖剤を除き同一系統・同一薬剤の連用を避ける。
- ④ ミツバチや天敵を使用している場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

促成ピーマン

1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 12月中旬現在、発病度※(本年値 14.0, 平年値 3.3)は平年より高く、発生地点率(本年値 60%, 平年値 53%)は平年並である。ただし、発生程度は圃場による差が大きい。
※発病度: 病斑をもとに算出した数値, 最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
- ② 罹病葉は新たな伝染源となるため、できるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤は、薬液が葉裏によくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の発生を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いてローテーション散布する。
- ④ 天敵を使用している場合は、薬剤の影響に十分注意する。

(促成ピーマン 続き)

2. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 12月中旬現在、寄生花率（本年値 64.4%，平年値 29.4%），発生地点率（本年値 100%，平年値 68%）ともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速いので，発生が少ないうちに防除を徹底する。また，各種ウイルス病を媒介するので注意する。
- ② 薬剤は，薬液が花や果実にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また，薬剤抵抗性の発達を抑えるため，異なる系統の薬剤を用いてローテーション散布する。
- ③ 天敵を使用している場合は，薬剤の影響に十分注意する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：平年並 ～やや少ない	12月中旬現在，平年並～やや少ない発生である。
促成ピーマン	斑点病	発生量：やや多い	12月中旬現在，平年よりやや多い発生である。
促成トマト	灰色かび病	発生量：平年並	12月中旬現在，平年並の発生である。
促成キュウリ	うどんこ病	発生量：平年並	12月中旬現在，平年並の発生である。

平成 26 年版果樹等病害虫参考防除例について

参考防除例は、主要な病害虫の発生生態や例年の発生状況の他、薬剤耐性・抵抗性の発達の回避なども考慮して、効果的な防除時期と薬剤を選定して示しています。防除にあたっては、年次による病害虫の発生変動も大きいため、過度の農薬散布を防ぐ必要があります。

そこで、参考防除例を効果的に活用するためには、環境にやさしい防除技術を導入した上で、病害虫防除所の発生予察情報や自分の圃場における病害虫の発生状況を十分に確認し、必要に応じて薬剤防除を行うようにしましょう。各参考防除例の平成 25 年版からの主な変更点を以下にまとめました。これら変更点に十分に注意して防除しましょう。

赤ナシ無袋栽培

- ・黒星病の重要な防除時期のひとつは 3 月下旬～5 月上旬です。その期間の防除を一層強化するため、[開花直前～開花始め (4 月中旬)] の殺菌剤をファンタジスタ顆粒水和剤に変更しました。また、薬剤耐性菌の出現を抑えるため、[6 月中旬] の殺菌剤をフルーツセイバーに変更しました。
- ・近年問題となっているヒメボクトウ対策として、ふ化幼虫に効果の高いフェニックスフロアブルを [7 月中旬：注意事項欄] に加えました。

ナシ黒星病の防除のポイント

ナシ黒星病は、3 月下旬～5 月上旬と、7 月中旬が最も重要な防除時期ですので、薬剤散布を確実に実施しましょう。特に、開花期前後は降雨のたびに胞子が飛散し、またナシ自体の黒星病への感受性も高くなるため、この期間は散布間隔をあげすぎないように注意してください。また、連続した降雨や激しい降雨があった場合は必要に応じて追加防除をしてください。

前年多発生した園では、秋～冬期の落葉処理とともに、催芽～萌芽期の薬剤防除を確実に実施しましょう。

露地巨峰・雨よけ巨峰

- ・各産地で被害の増加が見られているクビアカスカシバについて、落葉後の耕種的防除として粗皮剥ぎと中耕を促す記載を加えました。

クリ

- ・クリシギゾウムシを対象とした [9 月上旬～10 月中旬 (収穫後)] の収穫果実の不可欠用途専用臭化メチルについては、平成 26 年から使用できなくなるため削除しました。その代わりに、クリシギゾウムシを対象として、アグロスリン水和剤散布を [9 月上～中旬：注意事項欄] に加え、クリシギゾウムシの被害軽減を図ることとしました。ただし、早生品種の収穫時期と重なるので収穫前日数には十分注意が必要です。

リンゴ

- ・[6月中旬]の殺菌剤を、現地で使用事例の多いオンリーワンフロアブルに変更しました。
- ・殺虫剤サイアノックス水和剤の収穫前日数が30日から45日に変更されたため、[7月下旬]での使用が困難となりました。そこで、近年問題となっているヒメボクトウ対策を兼ねて、収穫前日数が前日であるフェニックスフロアブルに変更しました。
- ・上述のサイアノックス水和剤以外にも、ジマンダイセン水和剤、スコアMZ水和剤などで登録内容の変更がありますのでご注意ください。(その他の変更点については下表を参照して下さい。)

表 リンゴ病害虫参考防除例の主な変更点

平成25年版

時期、記載場所	対象病害虫	薬剤名と使用時期・使用回数
開花直前 (4月中～下旬)	赤星病	ジマンダイセン水和剤 (収穫60日前まで-3回以内)
落花直後 (5月上旬)	黒点病 斑点落葉病 赤星病	スコアMZ水和剤 (収穫60日前まで-3回以内)
6月中旬	斑点落葉病 輪紋病	パスポートフロアブル (収穫45日前まで-3回以内)
6月下旬	ハマキムシ類 シンクイムシ類 アブラムシ類 キンモンホソガ	サイアノックス水和剤 (収穫30日前まで-3回以内)
7月下旬	ハマキムシ類 シンクイムシ類 アブラムシ類 キンモンホソガ	サイアノックス水和剤 (収穫30日前まで-3回以内)

平成26年版

対象病害虫	薬剤名と使用時期・使用回数
赤星病	ジマンダイセン水和剤 (収穫30日前まで-3回以内)
黒点病 斑点落葉病 赤星病	スコアMZ水和剤 (収穫30日前まで-3回以内)
斑点落葉病	オンリーワンフロアブル (収穫14日前まで-3回以内)
ハマキムシ類 シンクイムシ類 アブラムシ類 キンモンホソガ	サイアノックス水和剤 (収穫45日前まで-2回以内)
ハマキムシ類 シンクイムシ類 キンモンホソガ ヒメボクトウ	フェニックスフロアブル (収穫前日まで-2回以内)

チャ

- ・チャトゲコナジラミは、本県では平成24年7月に県西地域のチャ栽培園で発生が確認され、平成25年には県央、県北地域でも発生が確認されました。そのため、[冬期(1月と2月)]にトモノールS散布を2回追加しました。
- ・チャノホソガ、チャノコカクモンハマキ、チャハマキに対し防除効果の向上を図るため、[夏芽生育期(8月上～下旬)]の殺虫剤をサムコルフロアブル10に変更、[秋芽生育停止期(10月中旬)]の殺虫剤をロディー乳剤に変更しました。

※チャトゲコナジラミに関する情報は、農林水産省のホームページに掲載されている「チャの新害虫チャトゲコナジラミの防除対策マニュアル」を参考にしてください。

<http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryoku/>

ハウスナシ、ナシ(トライ事例)、ウメ、カキ

- ・大きな変更点はありません。

II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 12月21日から1月20日)

気象庁(12月20日 発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	40	40	20
降水量	関東甲信全域	30	40	30
日照時間	関東甲信全域	20	40	40

[概要]

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

<1週目の予報> 12月21日(土曜日)から12月27日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率50%

<2週目の予報> 12月28日(土曜日)から1月3日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または低い確率40%

<3週目から4週目の予報> 1月4日(土曜日)から1月17日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または低い確率40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。